

知って
おきたい

Fantastic!
ファンタスティック!
漢詩ワールド

日本の 漢詩

宇野直人



第四回

博学無比の人

林羅山

壬戌之秋 過長州下関 因拜安德帝遺像 丙午之春又拜
之 既作唐律一絶以弔焉 宋陸秀夫抱幼帝与二位尼所為
何異 彼丈夫也 此丈夫也 唯有男子婦人之異 又有説大
学与否之異耳

壬戌の秋 長州の下関に過り 因つて安德帝
の遺像を拜す 丙午の春 又之を拜す 既に唐律の一絶を作つて以て焉を弔す 宋の陸秀夫
幼帝を抱くは 二位の尼の為す所と何ぞ異ならん 彼は丈夫なり 此も丈夫なり 唯だ男子婦
人の異有るのみ 又『大学』を読むと否との異有るのみ

林羅山 七言絶句(下平・四豪(艘)ノ二蕭(揺・潮))

天子蒙塵船幾艘
翠華千里影摇摇
築城捲土重来否
恨在西関不下潮

天子蒙塵 船幾艘
翠華千里 影摇摇
城を築き 土を捲いて 重ねて来るや否や
恨みは西関 潮を下さざるに在り

月前見花

淡月映欄花氣濃
春宵好景勝秋中
不明不暗朦朧影
于色于香剪剪風

月前に花を見る 林羅山

七言絶句(上平・一東(中・風)ノ二冬(濃))

淡月 欄に映じて花氣濃やかなり
春宵の好景 秋中に勝る
明ならず 暗ならず 朦朧の影
色に 香りに 剪剪の風

夜船渡桑名

扁舟乘霽即收篷
一夜桑名七里風
天色相連波色上
人声猶唱櫓声中
衆星閃閃如吹燭
孤月微微似挽弓
漸到尾陽眠忽覺
臥看朝日早生東

夜船 桑名を渡る 林羅山

七言律詩(上平・一東)

扁舟 霽れに乗じて 即ち篷を収む
一夜 桑名 七里の風
天色 相連なる 波色の上
人声 猶ほ唱ふ 櫓声の中
衆星 閃閃として 燭を吹くが如く
孤月 微微として 弓を挽くに似たり
漸く尾陽に到つて 眠り忽ち覚め
臥して 看る 朝日の 早に東に生ずるを

癸巳日光紀行

園圃唯望露霈蕃
就中風味鼠粘根
公劉好貨非私利
願裏餼糧入此村

癸巳日光紀行

園圃唯だ望む露霈の蕃きを
就中風味は鼠粘の根
公劉の好貨は私利に非ず
願はくは餼糧を裏んで此の村に入らん

林羅山

七言絶句（上平・十三元）

更漏子 和加藤敬義齋「秋思」

夜曼曼
風凜凜
夢裏錦衾角枕
忽驚起
斜紅残
只見月転欄

更漏子 加藤敬義齋の「秋思」に和す

夜曼曼
風凜凜
夢裏錦衾角枕
忽ち驚起すれば
斜紅残す
ただ見る月の欄に転ずるを

葉声声

虫唧唧
忍清怨抛锦瑟
窃窈深
君門遥
独坐侍早朝

葉声声

虫唧唧
清怨を忍び錦瑟を抛つ
窃窈として深く
君門遥かなり
独り坐して早朝に侍す